
あなたの声と夢の中

天音そら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたの声と夢の中

【Nコード】

N2181E

【作者名】

天音そら

【あらすじ】

世に言う隠れオタなわたし。気が付けば「どこの2次元？」な魔法があたりまえの異世界、ヴォーワルト国に來ちゃって…私と同じ顔のあなたは誰？王道のラブコメ+ファンタジーを目指しつつ連載。

第1話（前書き）

はじめまして。

初めて小説を書いてみることにしました。

王道でありきたりな展開 + 文章がおかしいところが出てくるかもし
れませんが、生暖かい目で見守って下さい。

第1話

明るい空の下、晴れ渡った雲ひとつない暖かな昼下がり。
豪華な屋敷の裏庭の広い一角。

いかにも怪しい魔法円らしきもののそばに
ぶつぶつと何かをつぶやく若い女性が一人立っている。
周りにはそこそこ大きい池と、葉の生い茂った木々が鬱蒼と生えて
いるが

他の人の気配は感じられない。

「私に似てるこ…!」

女性がそう叫んだ瞬間、魔法円から光があふれ出し……消えた。
元から何もなかったかのように。

「…………あれ？」

女性は不思議そうに円を覗き込んだが、何も変化はない。

「……………そんな!!失敗するなんて、ありえないー!!」

そう叫ぶも、その声は空に吸い込まれていく。

呪文は完璧!何も間違えたところなんてないのに…とぶつぶつ言い
ながら、

足元にお置いてあったいかにも怪しげな本を開いて読み始めた。

と、その時

ざっば—————んっ!!

いい音が、あたりに響き渡った。

*

今日も甘い1日が終わった。

甘いといっても空気ではなく、食べるほうだけ。

だからと言って食べている訳ではない。私はもっぱら作るほう。

食べるのも大好きだけでもね！お菓子を食べてるときは幸せな気分
でいられるもの。

今日の出来は良かったな〜と思いつつ、

お風呂にゆつくり浸かって疲れを癒しているのは

水瀬ゆこ、20歳。

生まれた時から変わらない茶色の目に、自慢の茶色の髪は背中あた
りの長さ。

日本人の割には色素の薄い髪と目の色は小さな頃は嫌だったけれど、
今は満足している。

柔らかくてツヤツヤな髪質は唯一自慢できるところだとも思ってい
る。

仕事は今のところパティシエ見習いで2年目の春に入ったばかり。
毎日甘い時間を楽しみながら仕事をしているところ。

明日は日曜で仕事も休み…楽しみにしていたイベントがある日！
前々から楽しみにしていた日をわくわくしない人はいないよね？

私の今の心境もそう、楽しみ！ワクワクドキドキ！！

今年に入ってからは2回目…2ヶ月ぶりに会う（見る）お方の事を
考えると……

「きゃー！ー！ー！ー！ー！ー！」
ばしゃばしゃと湯船のお湯を叩きながらのはしゃぎよう。
あのお方！大好きな声優さん！きらさん！
そう、私は世にいう隠れオタク。
メイン属性（？）は声オタになるんじゃないかな。
オタ女性に多い腐には興味がなくて、どっちかというと普通のヲノ
べやゲームが好き！そんな声オタ。

「は〜あと数時間後には…会えるー！あ的美声とお姿…はうっ
…っど。」

今日のお風呂は気合を入れて綺麗にするため、長く入っていたおかげで頭がくらくらしてきた。

そろそろ上がらないとのぼせちゃうなー
と思い、湯船から上り風呂場内においてあったバスタオルに手をのばして体に巻きつける。

くらくら回る視界を感じながら、ヤバイと思いつつ

風呂場と部屋を繋ぐ扉を開け、いつものように片足を踏み出した瞬間

「…はれ？」

と奇妙な声を出したままかたむき、すとーんと体が落ち始めた。

バスタオル一枚まとった姿のまま。

扉の向こうは、晴れ渡った青空が現れていたのに

くらくらぼーっの思考力では、そのおかしな風景に気が付くことが出来なかった。

のぼせて頭がおかしくなったのか、それとも湯船で寝てしまい夢でも見ているのか…

と思いつつ、この落下する感覚はおかしい。

まだぼーとする頭で何気なく下をみると、広い庭に屋敷、真下に池らしきものが見える。

…このまま行くと私は池に落ちる…？

「ええええええええええっつ」

風呂を出たら、落下してるってなに？！

夢見てるの？！

というか、まだ死にたくないよー！！明日はイベントなのに！！
！きらさん！！！！

と、口には出せないまま心の中で叫んでいるうちに、池まであと数メートル。

せっせめてバスタオルをしっかりと握っていないとっつ、裸なんて嫌だよ！！

と、妙に冷静な事を考え、ひしつとタオルを握りなおした所で池に到達。

ざっばー！！！！！！！！んっ！！

いい音が、あたりに響き渡った。

「やったー！！！！！！！！やっぱり私に失敗なんてないのよ！成功成功」

明るい自信たっぷりな若い女性の声が聞えたので前を見てみて…驚いた、声も出ないほどに。

駆け寄ってくる女性が、私と同じ顔だなんて！！

信じられない…まだ夢の中？

第1話（後書き）

ご意見、ご感想、何でもお待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2181e/>

あなたの声と夢の中

2010年10月19日07時12分発行